

第2部

夢実現「親のまなびあい」 プログラム



1 夢実現「親のまなびあい」プログラム作成について

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが「生きる力」の資質や能力を身につけていく基礎をつくります。子どもが、自ら成長していく力を伸ばしていけるような家庭教育を受けることは、すべての子どもにとって重要です。

しかし、子どもを持つ保護者が、子どもをどう育てていくかということ、初めから知っているわけではありません。そのため、発達段階に応じた子どもとのかかわり方についての学習が必要です。

また、家庭教育は、家庭内で保護者が行う私的な教育活動とみられがちですが、社会の形成者としての子どもを教育するという社会性もあります。このため、家庭教育を個々の家庭の努力のみに委ねることなく、担い手である保護者の学びや育ちを社会として支えていくことが必要です。

保護者としての学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本です。

こうしたことから、学校や幼稚園、身近な地域でお互いに交流しながら、楽しく学び合うことができる参加型の学習、「夢実現『親のまなびあい』プログラム」を作成しました。

プログラムの名称については、子どもたちが夢や希望を持ち、夢の実現のために、保護者が家庭教育を通して、楽しみながら学び合い、育ち合い、子どもを共に見守り合えるようにという願いをこめ、「夢実現『親のまなびあい』プログラム」としました。

本プログラムを、学校や幼稚園での行事や保護者会、PTAによる集会、地域や公民館での行事など様々な機会に活用いただき、家庭の教育力の向上が図られるとともに、社会全体で子どもを育む気運が高まっていくことを期待しています。

2 夢実現「親のまなびあい」プログラムの概要

このプログラムは、子どもの健やかな成長とともに、お互いに家庭教育について学び合い、保護者として育ち合うことを支援するために作成した参加型（ワークショップ型）学習プログラムです。

この学習プログラムを通して、保護者が家庭教育について、共に気づき、共に考え、共に楽しく学び合うことができます。また、学ぶ機会を通して、保護者同士の仲間づくりができたり、お互いに相談できたりします。さらに、学びの必要性・重要性について認識していくものと考えられます。

(1) 夢実現「親のまなびあい」プログラムとは

【ワークショップ型プログラム・学習時間 60～90 分程度】

「夢実現『親のまなびあい』プログラム」は、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、参加者同士が主体的に話し合ったり、作業をしたり、交流したりすることを通じて学びます。

学習プログラムは、参加者中心に展開され、参加者が安心して意見を出し合い、話が聞けるように、家庭教育支援アドバイザー（ファシリテーター・進行役）が進行していきます。

参加者が他人の話を聞いたりすることをきっかけとして、自分の家庭教育を振り返ったり、これまで気づいていなかったことに気づいたり、改めて大切なことを再認識したりすることができます。参加者みんなの力で、それぞれが自分に合った答えを見つけ、学びを実践しようとする意欲が生まれてきます。

夢実現「親のまなびあい」プログラムの展開例

時間	活動内容	方法・留意点
15分	<導入> ①学習プログラムの趣旨説明 ②学習プログラムのルール説明 ③アイスブレイク（グループづくり）	○学習プログラムのねらい、流れについて説明します ○学習プログラムがスムーズに進むためのルールを説明します 【室内ルール】 ① 自分の考えや感じたことを素直に話しましょう ② 相手の話をしっかり聴き、意見や感じ方を尊重しましょう ③ 「良い」「悪い」などの判断や決めつけ、比較、分析は、やめましょう ④ 参加者の秘密を守りましょう ○初めて集まる参加者が、学習プログラムに参加しやすい雰囲気をつくります ○ワークショップで話がしやすいように、5名程度のグループをつくります
50分 }	<展開> ①良い時の子どもの様子 ②各グループの発表 ③困った時の子どもの様子 ④経験や実践	○テーマについてワークシートを使い、お互いに意見を出し合い、グループで話し合いを深めていきます ◎良いところを探して、楽しく学び合います ○各グループで出た意見を発表します ○学習プログラムに応じて、困った時の子どもの様子、経験や実践等も話し合います
60分	⑤・気づいたこと ・やってみようと思ったこと 【応用編として】	○学習プログラムを通して、「気づいたこと」「やってみようと思ったこと」を、各自で記入し、持ち帰ります ・話し合いの中から、共通して上がった課題をアドバイザーが絞り込み、話し合いのテーマを決めてもよい
15分	<まとめ> ①今日の学びのまとめ ②参加者の感想	○今日の学び合ったことを、振り返ります ○アドバイザーが必要に応じて、資料等を説明します ・発表できる人に感想を発表してもらいます

(2) 夢実現「親のまなびあい」ミニプログラムとは

【レクチャー型プログラム・学習時間 10～15分程度】

「夢実現『親のまなびあい』プログラム」の内容の一部を、短い時間で体験できる学習プログラムです。

「夢実現『親のまなびあい』プログラム」同様、参加者中心に展開されますが、家庭教育支援アドバイザーが、家庭教育の学び合いについて、説明を加えながら進行していきます。

夢実現「親のまなびあい」ミニプログラムの展開例

時間	活動内容	方法・留意点
2分	<導入> ①学習プログラムの趣旨説明 ②学習プログラムのルール説明	○学習プログラムのねらい、流れについて説明します ○学習プログラムがスムーズに進むためのルールを説明します 【室内ルール】 ① 自分の考えや感じたことを素直に話しましょう ② 相手の話をしっかり聴き、意見や感じ方を尊重しましょう ③ 「良い」「悪い」などの判断や決めつけ、比較、分析は、やめましょう ④ 参加者の秘密を守りましょう
5分	<展開> ①良い時の子どもの様子	○良いところを探して、隣の人と意見交換し、楽しく学び合います
5分	②意見の発表	○出た意見を、アドバイザーがいくつか発表します
3分	<まとめ> ①今日の学びのまとめ	○今日の学び合ったことを、振り返ります ○アドバイザーが、必要に応じて資料等を説明します



3 家庭教育支援アドバイザー（ファシリテーター・進行役）の役割と心得

アドバイザーは、「夢実現『親まなびあい』プログラム」を進行していきます。

アドバイザーは、講師のように「教える」役割ではなく、参加者が安心して学習できたり、話し合いができたり、気づきが得られたりすることを助ける役割です。

参加者と同じレベルで、全体の様子をよく見て、学習効果が高まるようにしていきます。

アドバイザーは、次のような点に留意して進めていきましょう。

(1) 参加しやすい「雰囲気」を創りましょう

- ・はっきりした声で、丁寧に、ゆっくり話しましょう。
- ・楽しい雰囲気になるよう、笑顔を大切にしましょう。
- ・話しやすい雰囲気になるよう、聞き役になりましょう。
- ・参加者同士が互いに尊重し、みんなで協力しながら学習できるように配慮しましょう。また、状況に応じてアドバイスしましょう。
- ・参加を強制しないようにしましょう。また、参加者が途中で抜けても構いません。
※学習を進めるに当たっては、様々な立場の人が参加していることを想定して、十分な配慮をしましょう。

(2) 参加者が主体的に参加できるようにしましょう

- ・参加者が安心して話し合いができるようにしましょう。そのために、室内ルールを守るよう、参加者に声をかけましょう。また、アドバイザーもルールを守りましょう。

【室内ルール】

- ① 自分の考えや感じたことを素直に話しましょう
 - ② 相手の話をしっかり聴き、意見や感じ方を尊重しましょう
 - ③ 「良い」「悪い」などの判断や決めつけ、比較、分析は、やめましょう。
 - ④ 参加者の秘密を守りましょう。
- ・参加者が主体的に参加できるように、アドバイザーは分かりやすく説明したり、質問を変えてみたりして、臨機応変に対応しましょう。
 - ・参加者同士が学び合い、関わり合えるよう、学習プログラムを進行しましょう。

(3) 流れを調整しましょう

- ・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
- ・参加者の様子を見て、じっくりと時間が必要な場合には、用意した内容の全てを行うことにこだわらないようにしましょう。

4 参加者の心構え

この学習プログラムは、誰かが教えてくれるものではなく、参加者の皆さんが積極的に参加しながら、共に楽しく学び合い、皆さんで創り上げていくプログラムです。

参加者は、次の室内ルール（約束）を守ることを心がけ、積極的に参加しましょう。

【室内ルール】

- (1) 自分の考えや感じたことを素直に話しましょう
参加者は、すべて対等です。皆さんが受け身ではなく、積極的に発言しましょう。
ただし、発言したくないときは、話さなくても構いません。
- (2) 相手の話をしっかり聴き、意見や感じ方を尊重しましょう
相手の意見を聴くことは、新しい気づきや発見があるかもしれません。また、自分を見つめることもできるかもしれません。相手の話をしっかり聴くことも大切な学びです。相手が話しやすい雰囲気をつくりましょう。
- (3) 「良い」「悪い」などの判断や決めつけ、比較、分析は、やめましょう
家庭教育には、いろいろな視点や考え方があります。相手の意見を否定したり、自分の考えを押しつけたりしないようにしましょう。
- (4) 参加者の秘密を守りましょう
家庭教育に関する学習プログラムですので、個人(あるいは家族)に関する内容が出てくることもあります。
このプログラムの中で知った参加者の個人情報、この学習の場だけのこととし、室外へは持ち出さない(他では話さない)でください。

